

# 名前とネーミングの考察

## —愛称・会社名・ペットの名前—

清海節子

### 1. はじめに

名前・ネーミング(名付け)というと、対象となるものは、多岐に渡り、会社、サービス、商品名、本のタイトル、作品のタイトルなどの無生物から、人間、ペットを含む動物までである。この論文では、清海(2005)で扱えなかった個人名に関連する愛称と、人以外のネーミング(会社名とペットにかんする名付け)についての考察をする。愛称にかんしては、プラグマティックな機能の観点から英語の愛称を考え、日本語の愛称と比較する。会社の名前は、さまざまな種類が見つかるが、人名が社名として用いられる例に限定して日本と欧米の企業名を検討する。ペットの名付けは、イヌとネコの名前を考え、イヌとネコの間の違いだけでなく、メスとオスの違いにも注目する。

本論の構成は次の通りである。2 節では、愛称の機能と型について、山口(1985)と Wierzbicka (1992)の分析を概観し、日本語と英語との違いを確認する。次にネーミングにかんして会社名とペットの名前について考察する。3 節では、人の名が付けられている会社限定して、日本企業と欧米企業でどのような共通点が観察されるか検討する。4 節では、最近のペットとして飼われているイヌとネコの名付けについて石田(2009)のデータを参考に考えていく。特に性別に基づいてどの程度の区別が名前の上でされているかに焦点をあてる。また、最近の子供の名付けとどの程度の共通性がみられるかについても調査する。5 節では、結論が述べられる。

### 2. 愛称の機能と型

愛称について考える際、「あだ名」「ニックネーム」、また英語の‘nickname’との違いを知る必要があるだろう。2.1では、愛称があだ名やニックネームなどどのように違うかについて辞書を調べて考える。次に、2.2では、山口(1985)の愛称とあだ名の弁別法を紹介する。2.3は、英語の愛称について Wierzbicka (1992)の説明を

みることにする。2.4では、英語と日本語の愛称の違いが述べられる。

## 2.1 あだ名と愛称の違い

人名については、名字の語源や、姓名判断など一般でも興味をもたれ多数の本が出版されているが、あだ名については、それほど研究されていない。我々は、一般的に「あだ名」と「愛称」、また英語から入った「ニックネーム」を区別せずに、これら三語がおおよそ同じ意味を表すという印象を受ける。例えば、広辞苑（第六版）を調べてみると、それぞれに次のような説明がされている。

(1) (i) 「あだ名（渾名・綽名）」

その人の特徴などによって実名のほかにつけた名。あざけりの意味や愛称としてつける。異名。ニックネーム。

(ii) 「愛称」

正称のほかに、親愛の気持ちをこめてつけた呼び名。ニックネーム。

(iii) 「ニックネーム」

あだ名。愛称。

上の定義によると、「あだ名」と「愛称」の違いは、前者に特徴による別名やあざけりの意味があることが明記されているかどうかであるが、どちらにも「ニックネーム」と記されている。さらに、(2iii)「ニックネーム」の定義が「あだ名」と「愛称」と書かれているので、「あだ名」と「愛称」と「ニックネーム」の三語は、概ね同じ意味を表現すると理解される。実際、英語の‘nickname’は、「あだ名」と「愛称」両語の意味を兼ねていると思われる。それは、*Oxford Dictionary of English* (Second edition)の定義が‘a familiar or humorous name given to a person or thing instead of or as well as the real name’であることから分かる。また、『新和英大辞典』(研究社：電子増補版)によると、「あだ名」を表す英語は、‘another [a separate, a special, a different] name: a nickname; ((文)) a so(u)briquet’, 「愛称」は、‘a pet name; ((文)) a term of endearment; [通称] a popular [an everyday, an informal] name’であり、本名以外の非公式な名前だという共通の意味があることから、英語では両語が‘nickname’で表される。要するに、英語の‘nickname’に対応する日本語は、「あだ名」「愛称」「ニックネーム」の三語あると考えて良いだろう。

この論文では、愛称は、「親愛の気持ちをこめてつけた呼び名」とみなし、あだ名はあざけりの意味を含む本名とは別の名として、愛称とは異なる呼称であると考え

る。そして、次の 2.2 で紹介する山口(1985)の提案するあだ名と愛称の区別に従うことにする。つまり、愛称とは、本人の前で使用でき、名前以外を連想させない呼び名で、独特の接辞があると特徴づけられる。

## 2.2 日本語の愛称の特徴

山口(1985:167-71)は、あだ名を論じるにあたって、自ら考えた方法で、あだ名と愛称を区別している。愛称とあだ名の区別はつきにくいと認めた上で、原則的には、相手から<sup>やぶ</sup>揶揄されたり軽んぜられたりしている呼び名を「あだ名」、親愛の気持ちで込められた呼び名を「愛称」と区別することを提案している。その上で、具体的には、以下の三つの弁別法があると述べている。

(2) (i) [愛称] 本人の前で本人を指示することができる呼び名

例：「やっちゃんは、どう考える？」

[あだ名] 本人の前で言いにくい呼び名

例：「はなぺちゃはどう考える？」

(ii) [愛称] 名前以外を連想させることが少ない呼び名

例：「ゆかり」からつくった「ゆっち」は他の事物を連想させない。

[あだ名] 名前以外の他のことをすぐに連想させる呼び名

例：「工藤麻理」からつくった「くま」は熊を連想させる。

(iii) 接辞の違い<sup>1)</sup>：

(以下括弧内には各接辞を含む例が左に、もとの名が右に書かれている)

[愛称]—例：お— (おけい←恵子)

—{っ/ん}こ (よっこ←好美) (のんこ←のえみ)

—すけ (ちいすけ←千恵子)

—くん (たっくん←隆)

—公 (りえ公←理恵)

—たん (みいたん←美和子)

—{っ/ん}ちょ (おだっちょ←小田切((名字))

(もがんよ←最上((名字))

—ちゃん (まあちゃん←昌江)

—坊 (ちい坊←千恵子)

- [あだ名]—例：—ゴン (ヨネゴン←今米<sup>いまよね</sup>((名字))  
 —さく (すぎさく←杉本((名字))  
 —ぺえ (じゅんぺえ←純子)

山口は、愛称をつくる接辞として選んだものは親しみやすさや、可愛らしさを表現するもので、あだ名の接辞は、田舎くささや怪獣等を表すと述べている。また、愛称は名字でなく、名前から一音節か二音節とり、それに接辞を付加してつくられる割合が 8 割以上であり、一方であだ名は、名字から作られることが多いと指摘している。

### 2.3 英語の愛称の分類

Wierzbicka (1992:225-34) は、最初に Van Buren (1977) の分類を批判することから議論を進めている。Van Buren (1977:112) は、アメリカ人の名前が体系を成していると考え、それを説明するために、まず、個人名 (first names) を男性と女性に分け、それぞれのグループをさらに次のような 3 つのカテゴリーに分類している：(i) ‘full first names (FFN)’ (「略さない正式な名前」例：Thomas, Pamela) (ii) ‘nicknames (Nn)’ (「ニックネーム」例：Tom, Pam) (iii) ‘affectionate nicknames (AfNn)’ (「愛情のこもったニックネーム」例：Tommy, Pammy)。また、Van Buren はこれらのカテゴリーに、‘formality’ (改まり)、‘informality’ (形式ばらないこと)、‘masculine connotation’ (男らしさの含意)、‘feminine connotation’ (女らしさの含意) ‘childish connotation’ (子供っぽさの含意) 等の一定のプラグマティックな意味を割り当てる試みをしている。Wierzbicka は、この分け方は、あまりに単純化されていると批判して、次の事実を指摘している。第一に、英語には、地域差があり、例えば、‘Dave’ は、‘David’ の標準短縮形であると考えられるが、オーストラリア英語には当てはまらない。この差異については、別に考察する必要がある。第二に、それぞれの名前は、歴史や頻度や連想が異なっている。例えば、‘Pammie’ と ‘Katie’ は、どちらも子供っぽい意味合いがあるが、‘Pammie’ の方が、‘Katie’ よりも子供っぽいと考えられている。このような個々の違いも研究する価値があるが、それは程度の差である。従って、カテゴリー間での違い、即ち、‘Pam’ と ‘Kate’ に対する ‘Pammie’ と ‘Katie’ というような違いとは一線を画するべきである。第三に、固有名詞の意味論は、広い分野であるので、副次的な規則の例についての一般論を完璧に扱うことはここではできない。例えば、

‘Jimmy’や‘Gracie’は、ふつうでは、子供っぽいととらえられ、一見矛盾するようだが、‘Jimmy Carter’<sup>2)</sup>や、‘Gracie Allen’<sup>3)</sup>が、‘James’と‘Grace’の代わりに習慣的に使われている。実際、政治家や有名人は、独自のカテゴリーを構成し、独自の規則があると考えられる。

次にWierzbickaは、Van Burenの分類の問題点を示している。まず、略さない正式名でも、プラグマティックな価値が異なっていることについて具体例をあげながら説明している。まず、男性の名前では、‘Thomas’や‘William’は、‘Andrew’や‘Martin’とは区別されるべきであるし、女性の名前では、‘Pamela’や‘Katherine’と、‘Pamela’‘Helen’‘Ruth’‘Janet’‘Clare’等とは、区別すべきである。なぜなら、‘Thomas’には‘Tom’、‘William’には‘Bill’という無標の標準省略形があるし、‘Pamela’には、‘Pam’、‘Katherine’には‘Kate’という無標の標準省略形があるので、省略されない形（即ち、‘Thomas’‘William’‘Pamela’‘Katherine’）が有標になるのである。それに対して、‘Andrew’や‘Martin’‘Clare’や‘Katherine’には、無標の標準省略形がないので、これらの名前は有標にはならず、無標なのである。ただ、例外もあり、無標の標準省略形があっても、省略されていない形も無標になる場合がある（例：‘Michael’（‘Mike’）、‘Matthew’（‘Matt’）、‘Stephen’（‘Steve’）、‘David’（‘Dave’））。

またWierzbickaは、省略形についてもすべて同等には扱うべきでないと主張している。例として、男性の名前では、‘Tom’‘Bill’‘Bob’は、‘Ger’‘Ter’と同じ価値をもたず、女性名では、‘Pam’‘Kate’‘Sue’は、‘Deb’‘Pen’‘Beck’と同じ価値があるとは言えないと述べている。なぜなら、‘Tom’‘Bill’‘Bob’は、それぞれ‘Thomas’‘William’‘Robert’の無標の標準短縮形であり、同様に、‘Pam’‘Kate’‘Sue’は、それぞれ‘Pamela’‘Katherine’‘Susan’の無標の標準短縮形であるが、‘Ger’‘Ter’‘Deb’‘Pen’は、無標標準短縮形ではないからである。‘Ger’と‘Ter’は、正式な名前（‘Gerald’と‘Terrence’）の短縮形であるが、語末が-yである別の短縮形の‘Gerry’と‘Terry’が無標標準短縮形であり、‘Ger’と‘Ter’は、「愛情を表現する」または「子供っぽさを表す」派生語であると考えられる。‘Deb’‘Pen’にかんしても同様に、正式な名前がそれぞれ‘Deborah’‘Penelope’であり、別の短縮形（語末が-ieか-y）の‘Debbie’と‘Penny’が無標標準短縮形であり、‘Deb’と‘Pen’は、「愛情を表現する」または「子供っぽさを表す」派生語であると考えられる。Wierzbickaは、以上から、次の方程式が導き出せると言っている。

(3) (i) Bobby = Jimmy (ii) Pammy = Ruthie

(3i) について言えるのは、‘Bobby’ と ‘Jimmy’ が、正式な名前 ‘Robert’ と ‘James’ からできた短縮形ではあるが、それぞれ別の短縮形の ‘Bob’ と ‘Jim’ が無標であるため、‘Bobby’ と ‘Jimmy’ は、有標になる。(3ii) も有標の名であり等しい関係になる。しかし、Wierzbicka は、語末が *-y* や *-ie* である名前でも次の方程式は導けないと述べている。

(4) (i) Bobby = Terry (ii) Debbie = Pammy

名の形は似ているが、何故等しいと言えないのだろうか。上の二つの方程式に共通して言えるのは、どちらかが有標(‘Bobby’, ‘Pammy’) で、もう一方が無標(‘Terry’, ‘Debbie’) であるからである。従って、Van Buren の 3 つのカテゴリ (FFN, Nn, AfNn) では不十分で、少なくとも次の 6 つが必要になってくる: (i) 無標の省略されていない名 (Martin, Clare), (ii) 有標の省略されていない名 (William, Deborah), (iii) 無標の短縮形 (Tom, Pam), (iv) 有標の短縮形 (Ter, Ger, Deb, Pen), (v) 無標の *-ie/-y* 形 (Penny, Debbie, Terry, Jerry<sup>4)</sup>), (vi) 有標の *-ie/-y* 形 (Martin, Clare)。

さらに、Wierzbicka (1992:228) は、ネイティブの反応から判断して、次の例のように、元来男らしい名前は、短縮されると男らしいが増し、逆に、元来女らしい名前は、短縮されると女らしさが減少すると提案する。

(5) ‘William’ (男性の名前) > ‘Bill’ (高められた男らしさ; 原型: 男  
または少年)  
‘Pamela’ (女性の名前) > ‘Pam’ (低められた女らしさ; 原型: 人)  
‘Deborah’ (女性の名前) > ‘DebbIE’ (高められた女らしさ; 原型: 女  
性または少女, または子供)

上で、‘DebbIE’ (強調のために IE を大文字で書かれている) は、*-ie* が語末にくる 2 音節の名前なので、‘Pam’ のように女らしさが低められることはない。また、‘Pam’ が女性に用いられるのに、原型が「人」になっている理由は、基底にある

略されない正式名（‘Pamela’）が女性を表すことを決定していて、短縮形（‘Pam’）が女性であることを強調しないからである。

Wierzbicka (1992: 228-9)は、語末が *-ie/-y* の名前でも、女性の名 ‘Debbie’ ‘Penny’ と男性の名 ‘Terry’ ‘Jerry’ とでは、異なる価値を与えるべきであると提案している。標準男性形では、語末が *-y* で、*-ie* でないことも証拠とみなされ、例えば、子供っぽさを表す男性形の ‘Billie’ や ‘Eddie’ は、標準短縮形の ‘Bill’ と ‘Ed’ から派生したと感ぜられるが、‘Terry’ や ‘Jerry’ は、‘Ter’ ‘Jer (Ger)’ から派生したと感ぜられない。実際、‘Terry’ や ‘Jerry’ のような *-y* で終わる名前は、‘Pam’ や ‘Kate’ のように子音で終わる女性短縮形と同じプラグマティックな価値があるように思われ、次のように要約されている<sup>5)</sup>。

- (6) ‘Gerald’ (男性の名前) > ‘Gerry’ (強調されなくなった男らしさ; 原型: 人)  
‘Pamela’ (女性の名前) > ‘Pam’ (強調されなくなった女らしさ; 原型: 人)

以上の考察を経て、Wierzbicka (1992: 230-1)は、英語の個人名とその愛称は、含意される意味に従って、次の 8 種類に分類されると提案している<sup>6)</sup>。

- (7) i) Standard male short forms (標準男性短縮形)  
例: Tom, Jim, Bill  
ii) Standard female short forms (標準女性短縮形)  
例: Pam, Kate, Sue  
iii) Child-oriented *-ie/-y* forms (子供志向の *-ie/-y* 形)  
例: Jimmy, Tommy, Pammie, Ruthie  
iv) Standard female *-ie/-y* forms (標準女性 *-ie/-y* 形)  
例: Debbie, Penny  
v) Unisex *-y* forms (男女共用 *-y* 形)  
例: Terry, Jerry  
vi) Non-standard short forms, backformations from *-ie/-y* forms  
(非標準短縮形, *-ie/-y* 形からの逆成語)  
例: Deb (Debbie), Pen (Penny), Sal (Sally)

vii) Unmarked male and female full forms (無標の男性及び女性正式形)

例 : Ruth, Clare, Andrew

viii) Marked male and female full forms (有標の男性及び女性正式形)

例 : James, Deborah

## 2.4 日本語と英語の愛称の違い

2.2で日本語の愛称について、2.3では英語の愛称の分類について、それぞれ山口と Wierzbicka の分析を概観した。愛称は個人名と深く関わるものである。特に英語では、体系化しており公の場で本名の代わりに使用されるのである。それとは対照的に、日本語では、愛称は親しみをこめた呼び名であるが、公ではほとんど使用されないことを認識しなければなるまい。清海(2005)でも指摘したが、個人名が使用される頻度が英語文化圏と日本ではかなり異なる。パン(1982:80)は、アメリカのカーター元大統領は、ホワイトハウスのスタッフに本名の ‘James’ の愛称 ‘Jimmy’ で呼ばれていた例をあげて、日本の総理大臣には起こりえないことであると述べている。日本では、公の場で、個人名を用いて指名することはほとんどない。公の場では、名字または、名字と個人名に「-さん」を付加して相手と呼ぶことが一般的である。逆に、欧米では、最初は、名字で呼ばれることはあっても、個人名で呼ばれるのにそれほど時間がかからない。従って、日本語と英語と同じレベルで、個人名と愛称を体系化することは不可能であると思われる。

大まかに言うと、英語のニックネームは、正式名を短縮したものと、接尾辞が付くものの2種類に分かれるようである。Wierzbicka の説明では、*-ie/-y* の2種類の接尾辞があげられているが、日本語の愛称を形成する接辞は、山口(1985:169-70)によると、接尾辞がほとんどだが、接頭辞を含むと25種類もある。その中で接尾辞の「-ちゃん」が一番多く使われていると思われるので、英語の *-ie/-y* に相当すると考えてもよいかもしれない。また、「-くん」は主に男性に使用されるが、英語の *-ie* が主に女性に使用されることと対比されるだろう。

## 3. 人名と関連のある会社名

会社の名付けの動機とみなされる要素はさまざま、設立に関連ある場所、信条、外国語で表現したり、語呂合わせや、良い音の響きなどがある。今回、人名を社名に入れている会社に限定して、日本企業と欧米企業でどのようなネーミングの共通



点がみられるのかを検討していく。以下で明らかになるが、人名を社名に取り入れる場合に、創業者の名字が一番多いのである。当然のことではあるが、服飾関係の会社は、デザイナーの姓名を使用するが多い。例えば、Anne Klein, Christian Dior, Giorgio Armani, Junko Koshino, Kenzo, Nina Ricci 等数多く、これらは、本論では考慮に入れていない。3.1では、日本の会社名、3.2は日本人にも知られている欧米の会社名をあげ、3.3では、名付けに共通する特徴が述べられる。

### 3.1 日本の会社名

本間（2006, 2008）を参考にし、人名と関連ある会社名を調べると、ほとんどが創業者の名前を使用している。それらの社名を特徴で大きく分けると、i) 創業者一人の名字を社名に含む ii) 複数の創業者の姓／名を組み合わせる iii) 創業者の名字と名前の両方を使う iv) 創業者の姓／名に変更を加えて社名にする v) 創業者ではない人の姓／名を社名にする、の5種類に分けられる。以下この順で、社名と創業者の名前の例を列挙する。

#### (8) 創業者一人の名字を社名に含む例

- ・マツダ（自動車メーカー）----- 松田重次郎
- ・島津製作所（理化学器械メーカー）----- 島津源蔵
- ・本田技研工業（自動車・バイク（他））----- 本田宗一郎
- ・ヤマハ（楽器、AV 機器メーカー（他））----- 山葉寅楠
- ・松下電器産業（電機メーカー）----- 松下幸之助
- ・出光興産（石油精製、油脂製造、販売等）----- 出光佐三
- ・太田胃散（胃腸薬製造等）----- 太田信義
- ・武田薬品工業（医薬品製造販売等）----- 武田長兵衛
- ・木村屋総本店（パン・菓子製造販売等）----- 木村安兵衛・英三郎
- ・三越（百貨店）----- 三越得会右衛門
- ・ヤナセ（自動車輸入販売）----- 梁瀬（やなせ）長太郎から命名
- ・オンワード樫山（アパレル販売）----- 樫山純三の名字と紳士服のブランド名 onward（英語で「前へ」の意味）を組み合わせた。
- ・江崎グリコ（製菓製造等）----- 江崎利一の名字から命名した「江崎商店」で発売した栄養菓子「グリコ」が成功したので、名字とグリコを組み合わせた。

- ・サントリー（酒・清涼飲料水製造販売）----- 売り出した国産初の赤玉ポーターワインのブランド名「赤玉」が「太陽（サン）」を表しており，創業者である鳥居信治郎の名字と組み合わせた。
- ・イトーヨーカ堂（総合小売業）----- 既存のヨーカ堂に創業者の甥でチェーン展開を始めた伊藤雅俊（現在名誉会長）の名字を加えた。

(9) 複数の創業者の名字を組み合わせた例

- ・小岩井乳業（乳製品製造販売）----- 開墾事業に携わった三人（小野義眞，岩崎弥之助，井上勝）の名字の最初の一字を並べたもの。

(10) 創業者の名字と名前の両方が社名となった例

- ・マツモトキヨシ（ドラッグストア）----- 松本清

(11) 創業者の名前を変更して社名にした例

- ・トヨタ自動車（自動車メーカー）----- 豊田佐吉（とよださきち）の名字から命名されたが、「豊田自動織機製作所」の自動車部から独立してカタカナ社名にしたとき，トヨタでなくトヨタと濁点をとった。
- ・ブリヂストン（タイヤメーカー）----- 石橋正二郎からの命名である。英訳は‘stonebridge’だが，語呂が悪かったので，逆にして「要石」の意味にもなる‘bridgestone’にした。
- ・美津濃（スポーツ用品メーカー）----- 明治39年水野利八と弟の利三は，「水野兄弟商会」を創業した。子孫以外から立派な人材が出ることを考え，「みずの」の読みは同じにして漢字を変え，大正12年に「美津濃運動用品」にした。出身地が岐阜県大垣で旧地名が「美濃」で，「津」は港を表すことから人が集まる意味を込めた。
- ・松竹（映像制作，興行等）----- 白井松次郎と双子の兄弟大谷竹次郎が「松竹（まつたけ）合資会社」を興した。1920年頃から「しょうちく」と呼ばれるようになった。
- ・エイチアイエス（格安チケット販売）----- 澤田秀雄の名前の頭文字Hを使用している。‘Hide International Service’の頭文字をならべたのが社名である。

(12) 創業者ではない人物の姓／名を社名にした例

- ・ロート製薬 ----- 創業者の山田安民は、明治32年に「信天堂山田安民薬房」を創業し、胃腸薬「胃活」を製造販売した。目薬の開発で東京眼下病院の井上豊太郎に相談した。井上が留学先のドイツで恩師のロートムント博士が考え出した処方を山田に教え、発売したのが博士の名前に因んでつけられた「ロート目薬」である。昭和24年に社名も変更した。
- ・ロッテ（菓子メーカー）----- 創業者重光武雄はゲーテの「若きウェルテルの悩み」が愛読書であり、主人公が心を奪われるシャルロッテの愛称ロッテを社名にした。ヨーロッパで「永遠の恋人」と呼ばれるロッテのように愛される企業にしたかった。

### 3.2 欧米の会社名

山田(編)(1990)を参考にして、欧米の会社の中で、日本でも知られた企業で、人名が社名になっている例を探した。選んだ社名は、人物の由来が明らかなものだけである。また、会社名は、ほとんどの場合省略された名であったり、愛称・通称が書かれている。例えば、Boeingの正式名は‘The Boeing Co.’である。日本の社名と同様に、以下5分類して列挙することにする。

(13) 創業者一人の名字を社名に含む例

- ・Boeing（ボーイング：アメリカの航空機メーカー）---- William E. Boeing
- ・Borden（ボーデン：アメリカの乳製品・パスタメーカー）---- Gail Borden
- ・Bose（ボーズ：アメリカのスピーカー（他）メーカー）---- Armar Gopal Bose
- ・Braun（ブラウン：ドイツの電気カミソリ（他）メーカー）---- Max Braun
- ・Chevrolet（シボレー：アメリカの自動車メーカー）----- Louis Chevrolet
- ・Chrysler（クライスラー：アメリカの自動車メーカー）---- Walter Percy Chrysler  
Chrysler
- ・Dunhill（ダンヒル：イギリス紳士服、服飾品、喫煙具製造）---- Alfred Dunhill
- ・Dunlop（ダンロップ：イギリスの自動車タイヤ等製造）---- John B. Dunlop
- ・Estée Lauder（エスティローダー：アメリカの化粧品メーカー）---- Estée Lauder  
Lauder
- ・Estro（エトロ：イタリア生地メーカー）----- Geralmo Etro
- ・Fauchon（フォション：高級食料品店）----- Auguste Fauchon

- Ferrari (フェラーリ：イタリアの自動車メーカー) ----- Enzo Ferrari
- Ford (フォード：アメリカの自動車メーカー) ----- Henry Ford
- Gillette (ジレット：アメリカの安全剃刀メーカー) ---- King Camp Gillette
- Gucci (グッチ：イタリアのバッグ衣料品等のメーカー) ---- Guccio Gucci
- Guerlain (ゲラン：フランスの香水・化粧品(等)メーカー) ---- Pierre François  
Pascal Guerlain.
- Guinness (ギネス：イギリスビールメーカー) ----- Arthur Guinness
- Hanes (ヘインズ：アメリカの紳士用下着・カジュアルウェアメーカー) -----  
Hanes 兄弟
- Harrods (ハロッズ：イギリスの百貨店) ----- Henry Charles Harrods
- Heineken (ハイネケン：オランダのビールメーカー) ----- Gerard A.  
Heineken
- Heinz (ハインツ：アメリカの食品メーカー) ----- Henry John Heinz
- Henckels (ヘンケル：ドイツの刃物メーカー) ----- Johan Peter Henckels
- Hermès (エルメス：フランスのバッグ革小物メーカー) ----- Thierry Heremès
- Hershey's (ハーシー(ズ)：アメリカのチョコレートメーカー) ----- Milton  
Snively Hershey
- Hoover (フーバー：アメリカの掃除機メーカー) ----- William Henry Hoover
- Jantzen (ジャンセン：アメリカの水着・スポーツウェアメーカー) ----- 共  
同経営者の Carl Jantzen
- Kellogg's (ケロッグ：アメリカのシリアル食品製造販売) ----- William Keith  
Kellogg
- Kraft (クラフト：アメリカの食品メーカー) ----- L. Kraft
- Lacoste (ラコステ：フランスのテニスウェア等のメーカー) ----- René Lacoste
- Lancel (ランセル：フランスのバッグ小物店) ----- Lancel 夫妻
- McDonald's (マクドナルド：アメリカのハンバーガーチェーン) ----- Maurice  
と Richard 兄弟
- Melitta (メリタ：ドイツのコーヒーフィルター等) ----- Melitta Bentz
- Michelin (ミシュラン：フランスのタイヤメーカー) ----- Michelin 兄弟
- Miller (ミラー：アメリカのビール製造) ----- Peter Frederick Miller
- Minton (ミントン：イギリスの陶磁器メーカー) ----- Thomas Minton
- Nestlé (ネスレ：スイスの食品メーカー) ----- Henri Nestlé

- Opel (ドイツの乗用車メーカー) ----- Adam Opel
- Parker (パーカー : アメリカの万年筆メーカー) ----- George S. Parker
- Philip Morris (フィリップモリス : アメリカのタバコメーカー) ----- Philip Morris
- Philips (フィリップス : オランダの電気・電子機器メーカー) ----- Gerald Philips & Frederick Philips 親子
- Porsche (ポルシェ : ドイツのスポーツカーメーカー) ----- Ferdinand Porsche
- Renault (ルノー : フランスの自動車メーカー) ----- Louis Renault
- Rosenthal (ローゼンタール : ドイツの陶磁器メーカー) ----- Philip Rosenthal
- Rossignal (ロシニョール : フランスのスキー用具メーカー) ----- Abel Rossignal
- Royal Doulton (ロイヤルドルトン : イギリスの陶磁器メーカー) ----- John Doulton は、1887年に Victoria 女王からナイトに叙せられ、1901年には、Edward 7世から会社と製品に Royal を冠する勅許を受けた。
- Sheaffer (シェーファー : アメリカの万年筆メーカー) ----- Walter A. Sheaffer
- Siemens (シーメンス : ドイツの総合電気器具メーカー) ----- Ernest Werner (von) Siemens
- Simmons (シモンズ : アメリカのベッドメーカー) ----- Zalmon G. Simmons
- Singer (シンガー : アメリカのミシン(他)メーカー) ----- Isaac Merrit Singer
- Swarovski (スワロフスキー : アメリカのベッドメーカー) ----- Daniel Swarovski Sr.
- Tiffany (ティファニー : アメリカの高級アクセサリー店) ----- Charles Louis Tiffany
- Tupperware (タッパーウェア : アメリカのポリエチレンやポリプロピレンの食品密封保存容器製造販売) ----- Earl S. Tupper
- Twinings (トワイニング (ズ) : イギリスの紅茶販売) ----- Thomas Twining
- Wedgwood (ウェッジウッド : イギリスの陶磁器メーカー) ----- Josiah Wedgwood
- Welch's (ウェルチ (ズ) : アメリカのグレープジュース等メーカー) ----- Thomas Bemwell Welch
- Woolworth (ウールワース (ズ) : アメリカの雑貨衣料チェーン店) ----- Frank Winfield Woolworth

- Wrigley's (リグレー：アメリカのチューインガムメーカー) ----- William Wrigley Jr.

(14) 複数の創業者の名字を組み合わせた例

- Bausch & Lomb (ボッシュロム：アメリカ光学製品メーカー) ---- 創業者 John Jacob Bausch と Henry Lomb それぞれの名字を使って命名した。
- B. V. D. (ビーヴィーディー：アメリカの男性用下着製造) ---- 3人の創業者, Bradley, Voorhees と Day の頭文字を並べた社名
- Fortnum & Mason (フォートナムメイソン：イギリスの高級食料品を中心とする百貨店) ---- 創業者の William Fortnum と Hue Mason 二人の名字から命名
- Harley-Davidson (ハーレーダビッドソン：アメリカのオートバイメーカー) ----- William Harley と Arthur Davidson 兄弟から命名
- Richard-Ginori (リチャードジノリ：イタリアの陶磁器メーカー) ----- Carlo Ginori 侯爵創業で, Julio Richard と合併したため, ハイフンでつながられている。(この例は, 複数の創業者でなく, 合併によって名前が組み合わせられている。)
- Tesco (テスコ：イギリスのスーパーマーケットチェーン) ----- チェーンの設定当初紅茶を供給していた T. E. Stockwell の頭文字に, 創業者の Sir John Cohen の姓の2字 ('co') を付加された名称 (この例は, 複数の創業者ではないが, 二人の関係者の名前から成立しているので, この分類に入れた。名前の組み合わせは一人が頭文字で, もう一人が姓の最初の2文字という珍しい命名であると考えられる。)

(15) 創業者の名字と名前の両方が社名になった例

- Jack Daniel's (ジャックダニエル(ズ)：アメリカのウイスキー製造) ----- Jasper 'Jack' Newton Daniel
- Louis Vuitton (ルイヴィトン：フランスの旅行鞆・バッグ等のメーカー) ---- Louis Vuitton
- Salvatore Ferragamo (サルバトールフェラガモ：イタリアの靴小物等のメーカー) ----- Salvatore Ferragamo
- Walt Disney (ウォルト・ディズニー社：アメリカのエンターテイメント会社)

----- Walt Disney

(16) 創業者の名前を変更して社名にした例

- Addidas (アディダス：西ドイツのスポーツ用品メーカー) ----- Adolf (愛称 Adi) Dassler から命名した。
- Audi (アウディ：西ドイツの乗用車メーカー) ----- 創業者 August Horch 博士の姓は、「聞く」の意味のドイツ語と同じスペルであることからラテン語訳 Audi を社名にした。
- Bic (ビック：フランスのボールペンメーカー)----- 創業者 Marcel Bich の名前から最後の‘h’を取り命名した。
- Johnnie Walker (ジョニーウォーカー：アメリカのウイスキー製造) ----- 経営者 Alexander Walker が創業者 John の愛称からつけた。
- Roberta di Camerino (ロベルタディカメリノ：イタリアの衣料品とバッグメーカー) ----- 銀行家の妻 Juniana Camerino が創業。Roberta は、少女時代に感動した映画の題名であり、自分の姓と組み合わせた。
- Steinway (スタインウェイ：アメリカのピアノ製造) ----- ドイツ家具職人 Heinrich Engelhart Steinweg が創業した。1850年政変を逃れてアメリカに移住し、英語的な名前、Henry E. Steingway に変えた<sup>7)</sup>。

(17) 創業者ではない人の姓／名を社名にする

- Godiva (ゴディバ：ベルギーのチョコレートメーカー) ----- 11世紀のイギリス Coventry 領主夫人 Godiva (夫の領主に対して圧政を諫めるため街を裸で行進をしたという伝説が残っている) に因む。

### 3.3 日本と欧米の会社名の共通点

3.1と 3.2で、日本の会社名と欧米の会社名で人名が使用されている例をみてきた。サンプル数は 98 で、多いとは言えないが、両方の社名にある程度の傾向をみつけることはできる。まず、創業者一人の名字を社名に含む例が大多数である。反対に、個人名 (personal name) だけが使用されている例は、日本で 3 例と欧米 1 例だけである(「エイチアイエス」のエイチが創業者の名前である秀雄の頭文字であり、「松竹」は兄弟の名前から一文字づつ取って命名されており、「ロッテ」と‘Godiva’ (ゴディバ) は女性の名前である)。「エイチアイエス」の場合は頭文字であるし、「松竹」

は二人の創業者の名前から一文字とって組み合わせたものであり、女性の名前は、創業者が選んだ女性の名であり、創業者自身の名ではない。従って、社名に個人名だけを略さずに使用することは稀なのではないかと推測できる<sup>8)</sup>。

また、創業者の名前を変えて社名にする例では、日本語だけに可能な方法が観察された。それは、漢字の読みの変化である。例えば、「トヨタ」は創業者の豊田（トヨダ）という読みからトヨタに変えたのである。その理由はいろいろあるらしいが、田という漢字が「た」と読めることも関係していると思われる。さらに、「松竹」は、はじめは「まつたけ」であったのだが、1920年頃から「しょうちく」と読まれるようになった。つまり、同じ文字で読み方だけ変えることができるのは、漢字を使用しているからである。また、「美津野」は、創業者の名字「水野」の読み方は同じままで、漢字だけ変えている。このような変化は、表音文字のアルファベットだけが使われる欧米の企業名では起こりえない。

#### 4. 動物の名付けについて

石田(2009)は、関東と関西の獣医師の協力のもとにイヌとネコのカルテから名前、性別、品種、生年の情報を得て、複数の角度からのネーミングの分析を行った。データの数がそれぞれ1万近くあり、信頼できる結果であると思われる。ここでは、性別の違いによる名前の順位とイヌとネコの名前の違いに焦点を当ててネーミングについて考えていくことにする。4.1でイヌの名前、4.2では、ネコの名前をメスとオスに分けて検討した後、4.3では、イヌとネコ、メスとオスとの比較をする。さらに最近の子供と共通する名付けについても考慮する。

##### 4.1 イヌの名前

イヌの性別での名前は、1993年以降のデータでオス 10,010頭、メス 9,303頭が分析の対象になっている。表1は、そのベスト20である。

表1 1993年以降のイヌの名前ベスト20 (石井 2009:17)

オスの順位			メスの順位		
順位	名前	該当数	順位	名前	該当数
1	ラッキー	154	1	モモ	383
2	レオ	145	2	ハナ	278



3	リュウ	134		3	サクラ	245
4	ジョン	126		4	ナナ	217
5	コロ	121		5	ラブ	143
6	タロー	113		6	ラン	128
7	チョコ	112		7	チョコ	127
8	クッキー	105		8	プリン	94
9	ゴンタ	95		9	メイ	92
10	クー	92		10	リン	91
11	ゴン	83		11	クッキー	90
12	ロン	81		12	マロン	87
13	リキ	79		13	チェリー	79
14	マロン	76		14	ヒメ	77
15	レオン	69		14	アイ	77
16	クロ	67		16	ミミ	76
17	ロッキー	66		17	リリー	74
18	ソラ	65		18	メリー	70
19	チビ	63		19	ミルク	68
20	アトム	61		19	ラム	68

表 1 から分かるように、メスに同じ名前を付ける傾向があるために、上位の該当数がメスの方がオスよりかなり数が多い。しかし、石田は、メスの上位 3 位の名前にかんして、オスにも「モモ」23 頭、「ハナ」15 頭、「サクラ」7 頭があることを指摘している。また、表から分かるようにベスト 20 の中、オスとメスで共通する名前は、「チョコ」、「クッキー」、「マロン」という食べ物の名前であり、「シヨコラ」も少し下位であるが、オスとメスは同数に近いし、「ミルク」は、メスが多いが、オスもいると石田は述べている。他にもメスの名前には、さらに「プリン」、「チェリー」と食べ物の名があることはメスの特徴であると考えられるだろう。

人名に用いられる名前であるかについて、上位 3 位だけに限ってみることにする。メスは、「モモ」、「ハナ」、「サクラ」であり人にも名付けることができる名である。一方、オスは、「ラッキー」、「レオ」、「リュウ」である。石田(2009:18)は、ラッキーは以前から上位を占めた伝統的な名前であり、「リュウ」だけが人名になり得ると述べている。しかし、明治安田生命の名前ランキング 2009 年の『名前を読み方ベスト 50』<sup>9)</sup>を参考にすると、男の子の 24 位に「レオ」(28人)が入っている。「ラッキー」は以前から上位を占めた伝統的な名前である。このように、上位だけにか

んしてみても、人につけられる名前をペットのイヌに使用することが少なからずあるということは、ペットが家族の一員としてみなされていることを示唆しているのであろう。

#### 4.2 ネコの名前

次に、ネコの性別による名前について考えることにする。1993年以降のデータで、オス 4,909頭、メス 5,030頭が分析の対象になっている。そのベスト 20 は、表 2 の通りである。

表2 1993年以降のネコの名前ベスト20 (石井 2009:36)

オスの順位			メスの順位		
順位	名前	該当数	順位	名前	該当数
1	チビ	123	1	ミー	179
2	クロ	110	2	モモ	151
3	トラ	88	3	チビ	116
4	ミー	83	4	ミミ	97
4	レオ	83	4	ハナ	97
6	シロ	57	6	ナナ	81
7	タロー	53	7	ミーコ	78
8	トム	45	8	クロ	74
9	タマ	42	9	シロ	60
10	ゴン	37	10	ミュー	58
11	ミミ	33	11	クー	57
11	ジジ	33	11	サクラ	57
13	ミュー	32	13	タマ	50
14	クー	31	14	メイ	46
15	コタロー	29	14	チー	41
16	チビタ	27	16	ミルク	40
17	モモ	26	16	ミケ	40
17	チャチャ	26	18	トラ	38
17	フク	26	19	ヒメ	36
17	マイケル	26	20	チョコ	35

石田は、ネコの名の特徴は、性別で峻別されずに混在していると述べているが、性

別による区別がまったくないわけではなく、例えば、オスには、「タロー」、「コタロー」、「レオ」、「トムゴン」などメスにはみられない名がある。それに対して、メス特有の名だという印象を受ける「ナナ」や、「サクラ」は、オスにも 10 頭見つかっている上、メスで 17 位の「ミケ」も、オスで 7 頭いたのである。ネコの名は、イヌほど性別で区別されていないという理由から予測できることでもあるが、事実、メスとオスで共通する名はイヌの3種をはるかに上回る 10 種も見つけられる。共通する名をメスとオスの名の合計数が多い順に列挙すると、「ミー」(262 頭)、「チビ」(239 頭)、「クロ」(184 頭)、「モモ」(177 頭)、「ミミ」(130 頭)、「トラ」(126 頭)、「シロ」(117 頭)、「タマ」(92 頭)、「ミュー」(90 頭)、「クー」(88 頭)である。石田は指摘していないが、ネコの共通の名がイヌの場合とは異なり、桃を意味する「モモ」を除いて、食べ物の名でないことも注目すべき点であると思われる。同時に、イヌの名でも、メスに食べ物の名が多く見られるという特徴は、ネコにも当てはまっており、メスには、「ミルク」(16 位)と「チョコ」(20 位)があるが、オスには、食べ物に関係する名は一つも見つからない。とは言え、21 位以降 50 位までの名の中には、オスでは、22 位に「ミルク」(22 頭)、45 位「マメ」(14 頭)、48 位に「チョコ」と「マロン」(各13 頭)等が見つかる。また、メスは、27 位に「マロン」(25 頭)、31 位に「プリン」(23 頭)が入っている。

さらに、人名にも使用される名前であるかについて、上位 3 位だけに限ってみると、メスは、「ミー」、「モモ」、「チビ」であり、「モモ」だけ人にも名付けることができると思われる。オスの名「チビ」、「クロ」、「トラ」は、人名に使用されることはかなり稀であると考えられる。このように、ネコの上位 3 位までの名前は、人名とは性質が異なる傾向があると言えるだろう。4.1 で確認したが、イヌの上位 3 位の名前では、オスの「ラッキー」以外の「レオ」と「リュウ」が人名に用いられるように、人名に近い名が使用される傾向があり、イヌとネコは対極の関係にあると考えられる。このことから、ネコよりイヌの方が人と対等な関係を持つ可能性ははるかに高いと想像されるが、4 位以下の名前を考慮にいと、実はそれほど違いがあるわけでもないことが分かる。

### 4.3 イヌとネコの名の比較

石田(2009:43)は、イヌとネコの名を比較して、この6-7年のイヌの名の変化が著しく、その理由は、血統がはっきりした小型犬種が急増したことを指摘している。「チョコ」、「マロン」、「シヨコラ」などの食べ物の名は、食べたいくらいかわいい

ことや、ちょこちょこ歩くこと、また体の色が茶色であることと関係があると石田は述べている。品種と名の関連性や、音節の数、頭文字の比較等興味深い考察がされているが、その中で、性別と名の関係に焦点を当てて考えることにする。

石田(2009:47-8)は、イヌとネコの性別と名前にかんして、顕著な違いが次の2点あると主張している。第一に、イヌは性別と名前との関係がはっきりしているが、ネコの場合は、境界線が曖昧になっている点である。第二は、イヌとネコに共通して観察されることであるが、メスの名前の方が特定の名前の集中度が高く、多様性に欠けることである。これに関係することで見逃してはならないイヌとネコの名付けの特徴がある。それは、イヌとネコ間では、程度の違いはあれ、性別で名前がある程度区別されているとは言っても、決定的に人の名前と異なる性質がみられることである。それは、制約のレベルの違いである。石田(2009:47)によると、イヌのメスの代表的な名である「モモ」、「ハナ」、「サクラ」、「ナナ」が、オスも3-5%含まれる。ネコにかんして言うと、オスの代表的な名前の「レオ」、「リュウ」、「タロウ」がそれぞれ10%以下ではあるがメスにも名付けられている。また「トラ」は、オスに多いが、メスの割合は25%ほどもある。同様に、メスに多い名の「ミー」、「ミミ」、「ミュー」、「チャコ」でも、オスが25%程度の割合で付けられている。これに対して、人の名付けでは、男性に女性特有の名(例:「モモ」、「ハナ」)を付けたり、女性に男性特有の名(例:「レオ」、「タロウ」)を付けることはきわめて稀であろう。従って、イヌとネコの名付けは、性別の制約がある程度認められるとは言え、人の名付けの制約よりは、はるかに緩やかであると考えてよいだろう。

それでは、実際に最近の子供の名付けとどの程度共通しているかを調べるために、明治安田生命の名前ランキング2009年の『名前の読み方ベスト50』とイヌとネコ上位20位の名と比較してみよう。イヌのオスから調べてみると、2位の「レオ」が男の子の読み方ベスト24位(28人)で、18位の「ソラ」が同6位(57人)に見つかる。また、オスイヌの3位の「リュウ」は、みつからないが、似た名前の「リュウト」は、男の子の読み方の44位(20人)に入っている。イヌのメスは、2位の「ハナ」3位の「サクラ」がそれぞれ、女の子の名前読み方ベスト50の47位(20人)、14位(38人)で、メスイヌ9位の「メイ」と10位の「リン」は、女の子の名前読み方の2位(64人)と、34位(26人)に見つかる。次に、ネコの名前を見ることにしよう。オス4位の「レオ」は、男の子の名前の読み方ベストの24位(28人)であるだけで他の名は見つからない。しかし、メスは、4種類の名が女の子の名前読み方ベスト50にみつかる。メスネコの4位の「ハナ」、6位の「ナナ」、

11 位の「サクラ」、14 位の「メイ」は、それぞれ、女の子の名前読み方ベスト 50 では、47 位 (20人)、34 位 (26人)、14 位 (38人)、2 位 (64人) である。また、メスネコ 10 位の「ミュー」は、女の子ランキングにはないが、似た音の「ミュ」が 7 位 (44人) にランクしている。以上から、人の名前に使える名付けは、イヌとネコの名のどちらについても、オスよりメスの方が 2倍以上多いという結果が得られた。換言すると、ネーミングにかんしては、女の子とメスとの間の関係が男の子とオスとの関係より強いことを示唆している。この結果から、メスの方がオスより、人に例えられ、人と同等であるとみなされる傾向があると推測される。

## 5. 結論

この論文では、個人名に関連する愛称と人以外のネーミングについて考察した。愛称の機能と型について、山口(1985)と Wierzbicka (1992)の分析を概観し、日本語と英語の違いを確認した。ネーミングは、会社名とペットの名前について考察した。人名が社名として使用されている場合に限定して日本企業と欧米企業の名前の共通する特徴を知る為に調査した結果、創業者の名字だけが社名に含まれている例が大多数であった。推測の域を出ないが、創業者の個人名 (first name) だけが略されず社名として使用されることは非常に稀であると考えられた。ペットの名付けは、イヌとネコの名前にかんして、メスとオスの間での名前の違いに焦点を当てて考察した。イヌの方が、性別で名前の関係がはっきりしていること、また、イヌとネコに共通してメスの名前の方が特定の名前の集中度が高く、多様性に欠けることが観察された。またイヌとネコの名付けは、性別の制約については人の名付けの制約よりは、はるかに緩やかであることも認められた。最近の子供の名付けと比較すると、人の名前に使われている名前の数は、オスよりメスの方が 2 倍以上多いことが分かった。

## 注

- 1) 山口(1985)が、大学生204名 (内訳：女子学生 176名、男子学生 28名) を対象にアンケート調査で得たデータを分類したもの (愛称の接辞 25例：あだ名の接辞 7 例) の一部である。山口 (1985:169) は、これらの接辞は、使用する場面や先行する語に左右されるので、絶対的なものでなく、あくまでも目安であると断っている。

- 2) ‘Jimmy Carter’ (39代アメリカ大統領: 1924-) の本名は, ‘James Earl Carter Jr.’である。
- 3) ‘Gracie Allen’ (アメリカのコメディアン: 1895-1964) の本名は, ‘Grace EthelCecile Rosalie Allen’ である。
- 4) ‘Jerry’ /ʒéri/ は, ‘Gerry’ /ʒéri/ と同様に ‘Gerald’ の短縮形である。
- 5) 男性の短縮形の ‘Gerry’ と ‘Terry’ は, 女性の名 (‘Geraldine’ と ‘Theresa’ の短縮形として) にも使用されることが可能で, ここで説明されている通り, 男性らしさが強調されなくなったという推測の妥当性を裏付けているように思われると Wierzbicka (1992:229) は述べている。
- 6) Wierzbicka (1992:230-1) は, これらの分類一つ一つに, ‘natural semantic meatalanguage’ で説明を与えているが, この論文では分類自体に焦点を当てているため説明部分は省略してある。
- 7) アメリカ移民の個人名の変化については, Liberson (1984:80-2) を参照のこと。
- 8) 会社の名前でなく, 商店などのネーミングには, 個人名がよく使われる。Lehrer (1992:128-9) は, 人の姓名は, ほとんどの事業所 (business establishment) の名称になり得ると述べている。そのような場合には, 名字か名前のどちらかが所有形に使用される。例えば, *Ellen Jefferson* という名の女性は, 自分のレストランやブティックを *Ellen’s* または, *Jefferson’s* と名付けることができるし, 普通名詞と組み合わせて *Ellen’s Diner* や *Jefferson’s Beauty Salon* と名詞句にすることも可能である。
- 9) サイトは, 次の通りである。  
[http://www.meijiyasuda.co.jp/profile/etc/ranking/read\\_best50/](http://www.meijiyasuda.co.jp/profile/etc/ranking/read_best50/)  
明治安田生命は, 加入者を対象に1989年度より「生れ年別の名前調査」を行っている。今回使用したデータの調査数の内訳は, 2009年生れの男の子 4,595人, 女の子 4,254人である。

## 参考文献

- 石田 戡 2009. 『どうぶつ命名案内』 東京: 社会評論社.
- 清海 節子 2005. 「個人名の型と機能」 『駿河台大学論叢』 30: 95-120.
- パン F. C. 1982. (1993<sup>5</sup>). 「呼称の社会学」 『日本語比較講座 5: 文化と社会』 61-82, 大修館書店.
- 本間之英 2007. 『誰かに教えたい「社名」の由来』 (講談社プラスアルファ文

- 庫) 講談社.
- 本間之英 2008. 『誰かに教えたい「社名」の由来 新進企業と老舗企業』(講談社プラスアルファ文庫) 講談社.
- 山口仲美 1985. 「名づけの楽しみ—あだ名」 森岡健二・山口仲美『命名の言語学: ネーミングの諸相』159-203, 東海大学出版.
- 山田政美(編) 1990 (1991<sup>2</sup>). 『英和商品名辞典: *A Dictionary of Trade Names*』研究社.
- Lehrer Adrienne. 1992. Names and naming: why we need fields and frames? In Adrienne Lehrer and Eva F. Kittay (eds.), *Frames, Fields and Contrasts: New Essays in Semantic and Lexical Organization*, 123-42. Hillsdale, NJ: Erlbaum.
- Liberson Stanley. 1984. 'What's in a name?... Some sociolinguistic possibilities.' *International Journal of the Sociology of Language* 45:77-87.
- Van Buren, H. 1977. 'American ways with names.' In Richard Brislin (ed.), *Culture Learning: concepts, applications and research*, 111-30. Honolulu: University Press of Hawaii.
- Wierzbicka, Anna. 1992. *Semantics, Culture, and Cognition: Universal Human concepts in Culture-Specific Configurations*. New York/Oxford: Oxford University Press.